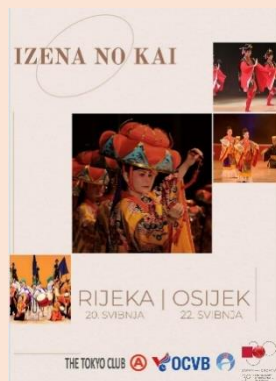


伊是名の会は令和5年5月18日～25日までクロアチアを訪れ、日本大使館の協力によりリエカ市及びオシエク市の二都市で公演を行いました。



この公演は日本・クロアチア共和国外交関係樹立30周年記念事業の一環として催されたもので、クロアチア市民に日本の重要無形文化財である琉球舞踊の古典と、古典をベースに現代感覚を取り入れた奄美・沖縄の創作舞踊を紹介して日本文化及び日本に対する関心と相互理解を更に深めてもらおうとする趣旨。一行はメンバー21名とコーディネーターである佐々木文徳氏と照明チーフの大橋治寿氏と通訳兼ガイドクロアチア人のエドワード片山トゥリプコヴィッチ氏とツアー客7名の計31名。

伊是名の会は過去にヨーロッパ8ヶ国を訪問しており、クロアチアは9ヶ国目の海外公演。羽田空港からイスタンブールを経由してザグレブ空港に到着後すぐに、官庁街にある日本大使館を表敬訪問。広報文化担当官より現地で空手や柔道など日本武道と俳句が人気と聞き、日本文化への関心が高い事を知りました。



昼食を取り広い草原地帯をバスで2時間ほど揺られて一つ目の公演地であるリエカに向かいました。リエカは旧市街地で山際に家が立ち並び、アドリア海を挟み向こう側にはイタリアが見える港町でホテルからの眺めは山から街、海まで見渡せるまさに絶景！夕食は地元のレストランでてんこ盛りのシーフードを頂きました。



翌日のクロアチア文化センターでの公演は一曲ごとの拍手と歓声の中、大盛り上がりで大成功でした。公演を観に来てくれた人から「私たちに舞踊を見せてくれてありがとう。素晴らしいダンスだった。またリエカに来て」とSNSでメッセージが届きました。

翌日、昨夜の公演の興奮がさめやらぬまま文化都市、食の街であるオシエクに向かいました。ホテルはドラベ川に面し絶景。川に浮かぶカヌーや朝陽、夕陽の美しい事。レストランのテラスで優雅にワインやビールを飲む人達が見える。夜はスラヴォニア地方自慢の肉料理を食べ、明日の公演に備えて英気を養いました。

翌朝、二回目の公演である会場クロアチア国立劇場へ。会場はバルコニー付きのオペラ座建築様式。この歴史ある煌びやかな会場で公演できる事に興奮するメンバー。会場の舞台スタッフは前日まで行われていたオペレッタの大がかりな舞台を撤去して、今夜行われる伊是名の会の公演に向けてリノリュームのカーペットを敷き、舞台後ろにホリゾン幕を貼るなど手慣れた様子で着々と作業を進め、私たちは舞台が整った午後からリハをして午後7時開演というタイトな時間の中、メンバーは衣装のセッティングと支度をしました。



この日は月曜日の平日夜間の公演でしたが、現地のダンスグループの指導者が親同伴で小さな子供達も沢山来てくれて観客席はバルコニー席まで満席。開場時間前にはロビーで日本から同行したスタッフが子ども達と折り鶴を楽しんだり、日本のお菓子を配るなど交流を楽しみました。

観客からは一曲終わる度に大きな拍手が送られ、ポーズが決まるとブラボーと歓声上がり、一緒に沖縄の歌を歌いましょうという誘いを快く受けて歌い、（すぐにお囃子の言葉を覚えて参加され、とても上手）笑うパフォーマンスにも素直に喜び海外特有のリアクションの大きさに気持ちも高揚し、アンコールでは鳴りやまない拍手と歓声の嵐に大興奮のメンバーでした。

23日ザグレブに向けてバスで移動。クロアチアはワインで有名。ポポヴァチャのワイナリーで美味しいワインとランチを楽しみました。夕方は大使公邸にて磯正人日本国特命全権大使主催のレセプションに出席。公邸料理人の現地の食材を使った心のこもったお料理を頂きました。そしてクロアチアツアーの期間中に誕生日を迎えたメンバー3人にサプライズのバースデーケーキ。大使公邸で誕生日を祝ってもらうなんて一生に一度あるかないかの体験に思わず感涙。大使館の皆さま、本当にありがとうございました。



24日の最終日。この日は自由行動でザグレブ市内を観光。オリエント急行が停まる駅前広場から出発して聖マルコ教会や地元食材を売るマーケットを自由に散策して買い物を楽しむ。夕方空港に向かいザグレブ空港からイスタンブールを経由して羽田に向かい帰国の途に着きました。

今回、中学生と高校生、大学生と3人の学生がメンバーとして加わりましたが、初めての海外で見るもの、聞くもの、体験した全ての事が新鮮に映った事でしょうし、貴重な経験が彼女達の将来に大きく影響するものと思います。

また、これからの人生の中でそれぞれ大切なものを得た事に違いありません。

新型コロナ感染以降久しぶりのヨーロッパ公演でしたのでさらに胸に深く心に刻まれる公演ツアーとなりました。舞踊公演を通して、日本文化へさらなる関心を広げる切っ掛けとなり、両国間の文化交流が深まる事への期待と、日本（特に沖縄・奄美）への観光誘致を含め国際親善となる活動を今後も続けていきたいと思ひます。

今回のクロアチア公演は私にとって初めての海外公演でした。なかなか実感がわかず想像上のイメージだけで胸を高鳴らせていました。現地の空港につくと広大な景色が広がっていて、都市に入っていくと歴史を感じる美しい建造物で成される映画のような街並みに感動しました。

現地についてすぐ、クロアチアの日本大使館を訪れそこで日本大使館を訪れたことで日本を背負って現地に来たような感覚になり、また大使館をはじめ海外の多方面からの協力によってこの公演がなされることがよくわかり、クロアチアで今回踊る事の重大さを改めて感じ実感が強く湧いてきました。

リエカの公演では国内では起こらない様々なハプニングが起こり海外公演の厳しさを痛感するとともに、それを乗り越え成功へと変えることができた伊是名の会の結束力を再認しました。そして、先生方をはじめとする大人のメンバーの臨機応変さに学ぶところが沢山ありました。

次に公演をする都市へと向かう最中も“クロアチアを堪能することが出来ました。料理は肉魚チーズなど場所によって盛んなものが異なりどれも絶品。人々は温かく、皆、美しい自然の中で心にもゆとりを持って今を生きているように見え、私も自然と心にゆとりをもち一瞬一瞬をしっかりと見つめて生活するようになったと思います。

二回目の公演はなんとオシエクの国立劇場。幕開け前、そんな会場に沖縄の音楽が広がり始め今までに無い感動を覚えました。緊張感、高揚感の雰囲気、メンバー全員で本番に向かうこの瞬間に胸が熱くなりました。一曲一曲ごとに大きな歓声と拍手をくれるお客様の姿から次はどんな表情をしてくれるだろうと想像すると自然と自分の最大限の力を出して笑顔で踊れるようになりました。海外特有のリアクションの多さが新鮮でありおもしろかったです。エンディングが見えてくると寂しさもこみあげ、クロアチア国立劇場で踊っている今を目に焼き付けようと思いました。メンバーとお客様共に一体の今という瞬間を噛み締め生きている自分を感じこの幸せな瞬間を一生覚えておこうとその時思ったのを覚えています。踊りを通してクロアチアの人々心が通じ合えたことに踊りもつ不思議で魅惑的な力を改めて感じました。公演が終わった後の大使公邸での時間も私たちにとって夢のような時間でした。

あっという間に過ぎ去った七日間ですが私にとって人生の視野を広げ、自分自身の概念を大きく変えた密度の濃い七日間となりました。このような機会を作ってくれた方々、舞台裏で支えてくれた方々、沢山の支えがあってこそ得ることが出来た経験でした。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後、さらに多くの国で新しい景色や視野を自分の中に取り入れると共に伊是名の会の琉球舞踊を広め、踊りを通して世界中の人々の心を繋いでいきたいです。楽しい旅をありがとうございました！



クロアチアの観衆魅了

伊是名の会

欧州9回目の公演、交流深める

【東京本社】東京を拠点にクロアチアを訪問。舞踊を通じて日本の文化と伝統を紹介する伊是名の会（主催）が、9回目のヨーロッパ公演でクオリアチアとの文化交流を深めた。日本大使館

や奄美市などの協力を得ながら行われた公演は、クオリアチア市民からも熱い支持を受け、両国間の相互理解と親善を促した。

同会のメンバー31人は5月18日から25日までクオリアチアに滞在し、2都市で公演した。

公演は、日本・クオリアチア共和国外交関係樹立30周年記念事業の一環として行われ、クオリアチア市民に日本の重要無形文化財である琉球舞踊の古典と、古典をベースに現代感覚を取り入れた奄美・沖縄の創作舞踊を紹介した。伊是名の会は、ギリシャ公演以来、5年ぶりの海外公演。

最初の公演地はアドリア海に面した港町リエカ。衣裳が行方不明になるトラブルに見舞われたが、予備の衣装を代用し、チームワークで乗り越えた。

2力所目はオシエク。会場は絵画のような華やかさを特徴とするネオバロック様式の建築が印象的なクオリアチア国立劇場。バルコニー席まで満席となり、大きな拍手と声援が送られた。

原口会主は「舞踊公演を通して、文化交流を深めることや、日本、特に沖縄・奄美への観光誘致を含む国際親善活動を今後も継続したい」と述べた。